特 集

「教師という人生」

広 田 純 一

蛭川先生のその言葉で，「教師になりたい」という私の漠然とした夢が「教師になる」という決意へと変わりました。

城西大学での４年間，硬式野球部に所属し，熱い指導者と全国各地から集まった高い志を持ったかけがえのない仲間達と寝食を共にし，教職員をはじめ多くの方々から応援していただき，本当に充実した学生生活を送らせていただきました。集大成として臨んだ大学最後のシーズン。リーグ戦で悲願の優勝を果たし，さらに明治神宮大会では準優勝を成し遂げました。私自身，チーム一丸となることがいかに大切かということと，裏方の重要性を痛感した経験でもありました。

野球部同期２人が蛭川ゼミに所属し，既に教師の道を志していました。大学４年秋，教員採用試験に関する勉強に取り組んでいなかった私は，学生達が蛭川先生のもとで互いを高め合いながら教師を目指す「教員養成サークル」で学びたく，蛭川先生の研究室を訪ねました。教職の講義で先生の人柄は知っていましたが，研究室での会話は教師を志す私にとって忘れられない衝撃となりました。

「教師になるために，勉強させてください」

「君には無理だぁ，帰ってくんない」

「どうしても教師になりたいので，なんとかお願いします…」

予想外の展開に，ただ立ち尽くしました。

その厳しい対応について，教師になった今は，「中途半端な気持ちではなく，やるからには覚悟を持って本気で取り組んでもらいたい。」という，会って間もない私に対する先輩教師としての厳しくもあたたかい愛情でありエールであったのだと回想することができます。

次の日，決意あらたに研究室を訪ね，思いを伝えると，今度は仏のような優しい笑顔で「それなら商業科の教師を目指したらどうだい？」と仰いました。そして，私が間髪入れずに言った，「ありがとうございます」の大きな声に研究室が笑顔に包まれたことを鮮明に思い出します。

蛭川先生の周りにはいつも笑顔が溢れています。先生の笑顔は心の底から教師を楽しんでおり，その姿で学生をやる気にさせます。時に見せる厳しさは愛に溢れており，サークルの合宿では学生達と共に学び，学生達と一緒になっておもいきり遊ぶ。教師として理想そのものです。

とにかく教師という人生を楽しむこと。そして，一人でも多くの生徒を笑顔にすること。蛭川先生の背中を追いかけた私は，先日生徒から嬉しい一言をいただきました。

「先生はいつもすごく楽しそうですね。

先生見ていると何故かやる気が出てきます。」

学生のことを一番に考え，惜しみない愛情を注ぎ込んでくださった蛭川先生へ深く感謝するとともに，蛭川幹夫の意思を受け継いだ先生方のご活躍を祈念し，寄稿とさせていただきます。

元気が一番，元気があれば何でもできる